

10月に入ってすぐにエンターライズ「バイオハザード6」において、セルゴトと思われる事案が発生したとの情報が飛び込んできました。情報によると、「実行役、壁役など複数名による犯行であった」、「実行役のゴト師が筐体左側面でゴソゴソしていた」、「ゴト実行後、なんらかのエラー（コマンドエラーとの情報）が発生した」、「エラー発生後、ゴト師らは退店した」、「筐体内部の一部配線が断線していた」というものでした。

「バイオ6」は新基準機旧手口は通じないそれが私の「勘違い」

被害情報から、またも過去に発生したART/AT機を狙ったセルゴトと同様の手口でやられてしまった！でも、「バイオハザード6」は新基準機と言われていたのに「なぜ過去と同じ手口で？」と不思議に思ったのです。

どうして「過去と同じ手口なのか」と不思議に思ったのは、新基準機は「ART機能の主基板移行

機」で、これまでサブ基板で管理していたART機能を主基板で管理することになっていいるのだから、今までのゴト手口は通用しなくなっているはずだと『勘違い』していたからなのです。

主基板制御ART機は「5・5号機」という呼称に決まったそう、で、「バイオハザード6」は5・5号機ではないので当然主基板移行機ではありませんでした。そうなのです！これが私の『勘違い』で、新基準機イコールART機能の主基板移行機ではないということだったのです。

この勘違いから、「バイオハザード6」は新基準機（ART機能を主基板で制御している）なので、同社の旧基準機「バイオハザード5」や「モンスターハンター月下雷鳴」などで狙われたサブ基板と主基板をつなぐ配線（通信ライン・サブハーネス）とは異なる箇所が狙われている可能性があると考えていました。

「5・5号機」ではなくこれまでと同様に狙われている

しかし、5・5号機ではないので、これまでのゴト手口が通用する可能性が高いということになります。事実、セルゴトの被害が発生していることを考えると、電磁波ゴトの被害にも警戒しなければいけませんし、不正サブ基板にも要注意しなければなりません。

詳細な手口として、具体的にこの配線或いはコネクタが狙われているかの確証は得られておりませんが、筐体左側面からセルを挿入している状況から、過去のセルゴトと同様に実行役の両隣に壁役が着席して犯行時に壁役が立つ

ゴトに勝つ 高石隆一

51

また急増「風車式クレマシ」 挙動不審のチェック厳しく



セル挿入懸念箇所

か或いは着席したままでナンバールンプのボタンに手を当てて犯行現場を隠すカモフラージュをしているものと思われるので、防犯カメラの録画映像をチェックする際には注意してご確認ください。

また、ホールスタッフの方々は、これまでのART/AT機のセルゴトと同様に、セルゴト実行時には犯行現場から遠ざけるために不自然な足止め行為の声かけや各種サービスを依頼してくるキャッチ行為に注意して、セルゴト実行後は異常なART残りゲーム数や異常な出玉を意識して、ちよっ

とても気になることがあればすぐに報告・連絡・相談というビジネスマニュアルの「ほう・れん・そう」を徹底するようにお伝えください。



厄介な「風車式」 外からは見えず 手口も進化の跡

「ジャグラーシリーズ」を狙ったクレジット上げゴトといえば、エアークレマンを連想する人も多いと思いますが、ここ最近「ジャグラーシリーズ」で被害が急増しているのが昨年の日遊協12月号の

った状態になるのでゴト器具がセットされているかどうかは外見からは全く判断が出来ません。

そして、このゴト器具がセットされた状態の遊技台は、一見普通に遊技しているように見えるのですが、実はメダルは一枚しか投入しておらず、この投入されたメダルがゴト器具にぶつかる勢いでクレマンのスイッチが入りパネの力で先端の金属片が風車状に回転してメダル通過センサーを誤認識させるというアナログ方式の仕組みになっています。

「IIK」と「IIKK」など 形式名似ているので 対象機種を注意して

このゴト器具による被害情報が入っているのは弊社では「アイムジャグラーAPEXVI」のみですが、北電子製スロットにおいては同一タイプのメダルセレクタが使用されていることから、その他の機種（シユートセンサーが付いていない機種）でも同様の被害が懸念されており、

メーカー発表で「マイジャグラーIIK」や「ニューアイムジャグラーEXXC」を含む19機種が被害対象機種として注意喚起されており、メーカー発出の注意喚起文書をご確認ください。

このゴト器具もエアークレマンなどと同様にメダル投入口から挿入するのですが、挿入されたゴト器具はエアークレマンなどと違って外部に露出する部分は一切なく、すっぽりとセレクタ内に収ま

にメダル返却ボタンを押すとゴト器具が下皿に落ちてくるので簡単にゴト器具を回収することが可能になっています。ただ、過去の被害事例では、通常時にゴト器具を回収するとセレクタエラーが発生するケースがまれにあるためか、実際の犯行時にはリール回転中にメダル返却ボタンを押して回収す

ちなみに「マイジャグラーIIK」や「ニューアイムジャグラーEXXKT」などはシユートセンサーが付いているタイプなので、このゴト器具の被害対象機種ではありません。被害対象機種とそうでない機種の型式名が似ているので注意してください。

風車式クレ満

スイッチ

風車のよう
に回転する

ゴト器具をセットしたイメージ

2.風車が回転することで
不正にクレジットが上がる

1.メダルがスイッチに
接触することで
風車が作動

セットする時とか
回収するときの
仕草でかなりわかる

「アイムジャグラーAPEXVI」で発生した被害事例では、セレクト関連のエラーが頻発していたとの情報も入っておりますので、コース巡回時にはエラーコード「C0」・「CC」などの発生状況に関しては「ほう・れん・そう」を徹底して情報を共有するなどして警戒にあたられますようお願いいたします。

します。

また、ホールスタッフの「ほう・れん・そう」を受けた役職者の方は、防犯カメラの録画映像チェックの実施をお願い致します。録画映像チェック時には、リール回転中やクレジット精算中にメダル返却ボタンを押してゴト器具をセットする仕草や回収する仕草がないか、ゴト器具の挿入タイミングを見計らう挙動（周囲をキョロキョロする様子）はないか、メダルサンドの使用頻度（遊技ペース）は一般のお客様とくらべて変わりが

いか（遊技とメダルサンドの売上状況）、メダルが下皿に戻る音をかき消すために下皿に財布やハンカチなどを置いていないか、といった点にも留意してチェックするようお願いいたします。

クレマン検知センサー
1点監視仕様では
報知しないケースも

ジャグラーシリーズでクレジット上げゴトの被害が多く発生していたことから、ジャグラーシリーズでクレマンゴト検知センサーを設置している店舗も多くあると思

います。このクレマンゴト検知センサーが2点監視仕様のセンサーであれば問題ないのですが、1点監視仕様のセンサー（ある特定の信号線を監視するタイプ）ではゴト被害の検知に至らないおそれがあることから、このゴト器具に対応するため一部のセンサーではバージョンアップなど

が必要とのことですので、自店舗に設置しているクレマンゴト検知センサーのタイプをチェックして対象センサーを購入した弊社にご確認ください。

うちのお店はクレマンゴト検知センサーを設置しているから大丈夫ーだと思っても、センサーがこのゴト器具に対応していなければセンサーは無反応で、閉店後に大きな誤差メダルという異常データが発生してしまうことがあるかもしれませんので、しっかりとしたセンサーのメンテナンスをお願いいたします。

ハンドクリームなど
手に付け羽根物狙い
拡大する「油玉ゴト」

前々号（日遊協9月号）の「ゴトに勝つ49」でお伝えした「油玉ゴト」の被害が拡大傾向にありますのでご注意ください。今回、油玉ゴトの被害が確認されたのがエキサイト「APPLESEED」という機種で、閉店後の台清掃時に当該遊技機のガラス内側や上皿レール、役物内、アウトボックス等に油が付着しているのを発見して、デー

タチェックをおこなったところ、大当り回数に対してスタート回数が異常に低く、連チャンしている状況が確認されたそうです。

油玉ゴトの手口は、ポケットなどに隠し持った油（主にハンドクリームなど）でベトベトになった手で玉に触れることで玉に油を付着させて、その油まみれの玉を打ち出すことによって玉の動きを変えて大当りしやすくするなど、特に羽根物要素のある遊技機に用いられるゴトです。



「油玉」と「右打ち」併用の場合もあり キョロキョロをマーク

エキサイト「APPLESEED」は1種2種混合機（デジパチと羽根物の混合機）であるため、その羽根物要素が狙われたものと思われる。また、別エリアで発生した「APPLESEED」の油玉ゴト事案では、通常時から右打ちしていたとのことで、攻略打ちと油玉ゴトの併用の可能性が高いものと考えられます。

「APPLESEED」は攻略対策として、通常時に右打ちした場合

液晶画面にエラー表示がされます。さらに右打ちを続けると、枠ランプがエラー発光しエラー音が発報するようになっていくのですが、数回の右打ち後に左打ちに一旦戻してから再度右打ちするなどすると枠ランプの発光やエラー音の発報が回避されてしまうのです。

ただ、この手のゴトをする輩は、ホールスタッフの動きが気になって周囲をキョロキョロ見るといって挙動が目立つ傾向がありますが、キョロキョロ見るといふ動作に関してはゴトの慣れ具合によってドンドン小さいモーションになってくるので注意が必要です。



通常の「右打ち」は ゴト行為ではなく ハウスルール明記を

油玉ゴトの被害の場合であれば、不正行為者ということで窃盗未遂や建造物侵入、解釈によっては遊技機からアウトボックス・島循環設備までもが油によって汚れてしまい元々きれいだった玉や様々な設備まで油に汚れてしまい通常営業に影響を及ぼすような事態になるので威力業務妨害罪などが適用

される可能性がある。刑事事件化しやすいと思いますが、通常時の右打ち攻略のみを実行された場合には注意が必要です。

通常時の右打ち攻略は、ゴト行為には該当しないので刑事事件化は出来ません。通常時の右打ち攻略に関しては、変則打ちという扱いでハウスルールや遊技約款において禁止事項として明記しておくことが大切なポイントになります。そこで、自店舗のハウスルールや遊技約款の内容をチェックして全ての出入口に掲示してあることも確認してください。



「カイジ3」の電磁波 ゴト技術も向上して 「店舗側の進化」が必須

前号でお伝えした銀座「回胴黙示録カイジ3」を狙った電波ゴトの被害が全国的な広がりを見せておりますが、犯行時にみられる筐体及び周辺機器でのエラー発生率が低下しているように感じられます。

これは使用しているゴト器具が改良されたことによる可能性もありますが、ゴト器具を使用してい

る実行役の技術が向上してエラーなどが出ないように使うことが上手になった可能性も考えられます。このようなゴトの進化に対応するためにも、ゴトを迎え撃つ店舗側も進化が必要です。ただ、「店舗側の進化」といっても大げさなものではありません。ホールスタッフには、どの遊技機でゴト被害が発生していて、そのゴトの手口と犯行時の挙動や特徴を伝えること、そして、発生しているゴトに対する物理的防護としてプラ板や各種センサーなどを設置すること、また、それらの設置状況や作動の確認を定期的に行うことが「店舗側の進化」です。古い情報や古い防護状態では、被害にも気が付かないかもしれません！ゴトの進化には、「店舗側の進化」が必要です！

■高石隆一 ■たかいしりゅういち
警備会社の指導員、セキュリティ会社を経営して2003年、有会社ジャパンセキュリティサービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務める。また、パチンコ産業のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。「二期二会」が座右の銘。